

静岡県立大学附属図書館

## シリーズ 私の一冊の本

経営情報学部 上野 雄史 先生

ユヴァル・ノア・ハラリ著/柴田裕之訳 河出書房新社

## 『ホモ・デウス:テクノロジーとサピエンスの未来(上・下)』

草薙 1F 閲覧室 上:209||H 32||1  
下:209||H 32||2

私は本を読むことが好きで、小説、歴史書、自己啓発本、専門書など、多岐にわたるジャンルを読んでいます。私が好きなのは本と出会う瞬間です。誰かの推薦ではなく、図書館や本屋での「この本いいな」と感じる瞬間です。そうした時間を皆さんも大事にしてください。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、私がお勧めする本を紹介します。それはユヴァル・ノア・ハラリの「ホモ・デウス:テクノロジーとサピエンスの未来」(上・下)です。ハラリは、イスラエル出身の歴史学者で、ヘブライ大学歴史学部の教授を務めています。彼は世界的ベストセラー「サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福」で広く知られています。

頻発する紛争や戦争をニュース、報道で目の当たりにして、私はしばしば「人間(ホモ・サピエンス)とは一体何なのか?」と問いかけています。私たちは高度な文明社会を構築し、AI(人工知能)を通じて多くのことを代替しようとしています。私たちはどこへ向かっているのでしょうか。

「ホモ・デウス」は、私たち人類の過去・現在・未来を、ハラリなりの方法で(主に歴史学を基礎としつつ、科学技術や人類学的アプローチも含めて)探求しています。本書を通じて、人類が飢餓、伝染病、戦争といった課題をどのように克服し、生活水準を向上させてきたかが明らかにされます。本書を読めば私たちの中に「人間至上主義」、すなわち、自分たちの生命を他のものを犠牲にしてでも最優先する考え方が根底にあることに気が付かされます。

ハラリは、人類の次のステップとして、不死や至福を追求し、「ホモ・デウス」(神に近い存在)を目指していると考えます。ハラリの予測が正しいかはともかくとして、彼の人類史に対する視点は、私たちが現在どのような時代に生きているのかを考察する手がかりとなります。例えば、ハラリが「克服した」と述べた戦争ですが、現在もウクライナやパレスチナのガザ地区では紛争が続いています。

私たちが本当にこれらの問題を克服したのかは疑問です。もしかすると、私たちがこれらの問題を解決したと信じているだけで、実際には再びこれらの課題に立ち向かう時代が来ているのかもしれない。私たちは、進んでいるように見えて、何も進んでいなかった、手に入れてなかったのかもしれない。この本は、そうした問いを投げかけてくれます。